



今求められる保育とは



青空保育たけの子

青空保育たけの子がキッチハイクさんの保育園留学を受け入れてから早3年。昨年度は36名の児童を受け入れましたが、今年度はすでに54名もの児童を受け入れています。

いつも面談の時に「なぜたけの子を選んでいただいたのでしょうか」と保護者の方にお聞きしているのですが、その理由として、「自然環境」「Y・A・B（あぶない・きたない・ばかばかしい）」「少人数」と言ったことを挙げていただくことが多いです。

その言葉の奥にあるのは、実は画一的な一斉保育から脱却し、子ども一人ひとりの主体性や「非認知能力」を尊重する「子ども主体の保育（質の向上）」なのではないでしょうか。

今、待機児童問題の解消が進む中で、量はもちろん、保育の質そのものが厳しく問われる時代になっています。

◇子ども主体の保育と非認知能力の育成

大人の指示通りに動かすのではなく、子ども自身が十分に遊び込み、意欲や粘り強さ、協調性などの「目に見えない力（非認知能力）」を育むことが、今求められる保育の3つの柱のひとつです。

たけの子では朝の会で「今日何する？」と子ども達と話し合います。保育者からいくつか提案しますが、「今日はこうします」ではなく、「こんなことはどうかな」と話し合いで決めています。

お出かけせず、園で自由に遊ぶと決まった時は、砂場で遊ぶ子、ツリーハウスで遊ぶ子、ストライダー、木工室内での工作などなど。子ども達は自分でやりたい

ことを自由に選んで遊んでいます。大人はそれを見守り、時々手助けする役割です。

「雨が降ったら外に行けないね」ではなく、「カップを着れば外で遊べるよ」といった具合です。森のムツレ教室（幼児のための環境教育）を保育に取り入れていますが、「天気が悪い」のではなく、「服装が悪い」と考えます。天気に良い悪いはないのです。子どもがしたいことも同じです。やりたいという意欲に良い悪いはありません。

たけの子では「木・火・土・金・水」という万物を創るという五行説をすべて体験できる環境設定を行っています。子ども達は、その環境の中でのびやかに遊んでいます。

◇ウェルビーイング（心身の健康と幸福）の重視
ウェルビーイングとは、子どもが安心感を持ち、情緒が安定した状態で日々を楽しく過ごせる環境を整えることです。

・子どもの「今」の幸せ：将来のためだけでなく、子どもがその瞬間に安心感や満足感を得られることを大切にします。

・安心と挑戦の循環：安心して過ごせる場所を土台として、子どもが自発的に遊びや外の世界に向かう力を育みます。

・大人も満たされる環境：子どもだけでなく、保護者や保育者自身も心身ともに健康でゆとりを持つことが不可欠とされています。

たけの子では、たとえば、木工ひとつとっても、一見無駄に思える釘打ちでも、子どもの「やりたい」気持ち大切にしています。きっとそれは無駄でなく、経験のひとつとして積みあがっていくものだと考えるか

らです。

月に一度「竹輪クラブ」と称し、保護者会を行っているのですが、そこで、保護者同士話しをすることで、子育ての不安を打ち明け合い、自己肯定感を高めています。

◇不適切な保育の根絶と新しい保育観

これは、古い指導やしつけを見直し、子どもの気持ちや意思に寄り添う受容的な関わりを徹底することを意味しています。

・古い保育観：「みんなと常に同じ行動」「決まりごとの厳守」「大人の指示に従わせるしつけ」を重視します。

・新しい保育観：子ども一人ひとりの主体性や人格を尊重し、失敗も学びとして温かく受け止めます。

たけの子では朝の会の時に「おうちのルール」というものを取り上げています。たとえば、「あいさつしよう」とか「ありがとうをくちぐせにしよう」などです。それを、わかりやすい漫画をみながら、毎朝ひとつずつやっています。すべてできる「いい子」にするためではなく、ルールを守った方が、楽しく過ごせるよいうことを知ってほしいからです。

そして、わからないことはわからないと言い、失敗すること、たくさん学べるということも繰り返し話しています。

たけの子で行っている保育は、正に、今求められる保育です。わたしは自分の心の赴くままに保育を行ってきました。その方がきつと子ども達にとってもわたし達大人にとってもいいことに違いないと考えたからです。きつとそれが保育園留学の園児が増えている要因なのだと思います。

辺見妙子